

第5回大町・一義杯会報告

T1 中村 圭一郎

令和6年9月14日土曜日午後2時、関内相生町の雀荘「プリンス」で、残暑厳しいなか、熱い戦い「第5回大町・一義杯」が開催されました。意気揚々と集合した戦士4人(開戦時席順、大和さん、中村、鈴木さん、倪さん)は、闘志を秘め、静かに戦いを始めました。

前回優勝の中村は、なかなか調子があがらず、配給原点2万7千点で我慢を続け、親を迎えました。ドラが3枚あったので、リーチをかけ、親満を狙っていたとき、風が吹きました。なんと大和さんから「カン！」の声。しかも2回も。ドラが5枚になり、ツモリ、親跳になりました。

その後、小さなあがりを重ね、トップで逃げ切りました。

第2局は、浮き沈みも少なく良い勝負でしたが、鈴木さんに



逃げられ終了。結局、第1局トップの分で棚ぼたの2勝目でした。大和さん。ありがとうございました。

第2局、じっと耐えていた中村に風がふき、4連チャンを重ね、他の3人がへこんでいる中、ダントツのトップで終わろうとしていました。そこで事件が起きました。親の新木さんがリーチをかけ、残り牌が少ないので、べたおりの雰囲気は漂うハイテイで、倪さんからなんとドラ牌がでました。「ロン！なんでこんなときにドラ出すの？」「いや～。テンパーから」。第2局の倪さんのマイナスが後々、大きく響くのですが。

時刻は18時。さあ、反省会かな？と思いましたが、ツキが上向きになった新木さんが許してくれませんでした。「もう半チャンしよう！」第3局の始まりです。第2局あたりから、配牌で3～4シャンテンが続き、風を感じていた中村ですが、第3局からは、イーシャンテンブロックで、テンパイにならず、倪さんに先にあがられてしまうことが続きましたが、なんとか忍耐してついでに行きました。



オーラスになりました。「中村さんが倪さんのあがった方が勝ちだね」新木さんの声がきこえました。配牌をみると3シ

ャンテンでした。ここであがって終わらせようと内心、勝利の予感を感じました。しかし、5巡目くらいでしたか、倪さんがリーチをかけました。その後、私の手がテンパリ、闇で待とうとしたとき、「ツモ！」倪さんの声が響きました。「おめでとう！倪さん。初優勝だね。」暖かい祝福の声がしました。点数を計算しているとき、「え！」と声が漏れました。「4点差で私が勝っている！」3勝目の瞬間でした。

	大和	中村	鈴木	倪
第1局	-12	+25	-12	-1
第2局	-12	-3	+14	+1
合計	-24	+22	+2	±0

(中村記)

第6回大町・一義杯会報告

T1 中村 圭一郎

令和6年9月21日土曜日午後2時、関内相生町の雀荘「プリンス」で、秋を感じさせる少し涼くなった中、熱い戦い「第6回大町・一義杯」が開催されました。早めに会場に着き、黙想して、連覇をイメージしていたのですが、倪さんがなかなか来ませんでした。「さては、武蔵の戦法か」と思った時、ようやく倪さんが来て、メンツが揃いました。本日集合した戦士は4人(開戦時席順、古川さん、中村、倪さん、新木さん) 第2回優勝者の新木さん、第3・5回優勝者の中村、第4回優勝者の古川さんが集まり、チャンピオン大会のような熱気を感じました。

開始早々、古川さんと倪さんが交互にあがり、中村と新木さんが必死に耐える展開でした。そのうち、倪さんがへこみだし、結局、古川さんが逃げきりました。

	古川	中村	倪	新木
第1局	+21	-15	-8	+2
第2局	-21	+38	-23	+6
第3局	-8	-7	+43	-28
合計	-8	+16	+12	-20

(中村記)